

卒業論文

昇き手から見た博多祇園山笠の変化と現在

—八番山「上川端通」の事例から—

平成 20 年度入学

文学部人文学科人間科学コース

社会学・地域福祉社会学分野

平成 24 年 1 月提出

要約

本論は博多祇園山笠の現代における変化と現状分析、問題点とその解決策について社会的に考察したものである。都市化の著しく進む博多という街において、博多祇園山笠は770年もの歴史を刻んできた。しかし、とてつもないスピードで変化する博多の様相に合わせて、博多祇園山笠も著しくそのすがたを変えてきた。その対応力は驚嘆に値することではあるが、急激な変化ゆえにやはり其処ここに問題や矛盾をはらんでいる。本論では、博多祇園山笠の現状を詳らかにし、問題をあぶり出し、その解決策を提示することを目的としている。

第1章では、博多祇園山笠の概要を説明する。博多祇園山笠の由来、スケジュール、運営方法などの記述を行った。

第2章では、博多祇園山笠を都市祭礼の観点から考察する。ここでは先行研究をもとにしながら、京都における祇園祭を運営する町コミュニティ研究との比較、また北部九州に偏在するほかの山笠における都市・集落特性に関する研究をもとに、博多祇園山笠と都市空間の関わりの新たな解釈を示す。

第3章においては博多の近代化にともなう都市空間の変容について言及する。博多の成り立ちから商業都市としての性格を強く持つことを示し、第2節以降では博多の都市がそれまでのものから激変した、戦後の博多の移り変わりを詳しくのべる。

第4章は私が実際に舁き手として4年間参加した八番山笠「上川端通」についての説明を行う。ここでは他の七流と異なる存在としての八番山笠「上川端通」の特殊性を浮かび上がらせ、その相違点から現在の博多祇園山笠における問題点を見つける手がかりとしている。

第5章では、八番山笠「上川端通」の元総務で、現相談役のH氏へのインタビューをまとめている。ここでは第4章で浮かんだ疑問や問題点を、インタビューを通して考察することで、その解決策を模索する一助とする。

第6章は、これまでの考察により、博多祇園山笠が内包している問題点や矛盾を明らかにし、それに対応する解決策を示し、今後の展望について論じ、本論を締めくくっている。

目次

はじめに	1
第1章 博多祇園山笠とは	2
第1節 博多祇園山笠の概要	2
第2節 歴史	2
第3節 スケジュール	3
第4節 変遷	5
第2章 都市祭礼としての博多祇園山笠	7
第1節 都心地域における町コミュニティ研究	7
(1) 「町」の構成単位と町内自治組織	
(2) 祭運営基盤の確立	
(3) 町コミュニティの行方	
第2節 北部九州に偏在する山笠	9
(1) ムラの中の山笠：鏡山笠	
(2) マチの中の山笠：津屋崎祇園山笠	
(3) 都市祭礼としての博多祇園山笠	
第3節 都市祭礼の伝統と変容—弘前の「喧嘩ネブタ」との比較から—	11
(1) 江戸時代	
(2) 明治・大正期	
(3) 昭和以降（戦後）	
第3章 博多の近代化と博多祇園山笠の変容	13
第1節 博多の歴史	14
第2節 町界町名整理事業	15
第3節 戦後の博多の街の変化	16
第4節 博多の街の近代化と博多祇園山笠の変容	17
第4章 博多祇園山笠における八番山『上川端通』	15
第1節 川端通商店街	18

第2節	博多祇園山笠における「上川端通」とは	19
第2節	博多祇園山笠における「上川端通」の特異性	20
第5章	昇き手から見た博多祇園山笠—八番山「上川端通」の事例から—	22
第6章	博多祇園山笠のこれから	27
第1節	地域コミュニティの再構築	27
第2節	新たな変革の必要性	28
第3節	今後の展望	29
	おわりに	29
	参考文献	30